

話しを聞いて助かる道なのに……

いろいろな理由により

- * 教話の無い教会が出てきたとか……
- * 教話を聞く機会が少ない信奉者が増えてきたとか……

扇町教会長（大阪市） 押木廣太が

『ボランティア教話出張』をさせていただきます。

- * 教話のない教会の祭典後の教話
- * 信心の指導やまとめをする人のいない、教会の信心研修会
- * 信心の指導やまとめをする人のいない、信奉者のグループの信心研修会

お気軽に申し込んで下さい。

- * お礼や接待の心配はいりません。（交通費のみご負担ください。）
- * 聴教者（教話を聞く人）の人数に関わりなく
（少数の聴教者、集まりこそが主旨です）
- * 遠方、地域に関わりなく
（日々活動しておられる教会はご遠慮下さい）

530-0026 大阪市北区神山町9-15

金光教扇町教会 押木廣太

TEL 06-6312-1149

FAX 06-6312-1148

メール アドレス post@ko-ougimachi.com

ホームページ アドレス <http://www.ko-ougimachi.com/>

* 裏に教話の題や座談のテーマの例と、押木廣太のプロフィールを記載しています。
ご参考に。

* 別紙『ボランティア教話出張』を思い立った主旨を記載。

○ 教話の題や座談のテーマの例

(ご要望により、どのようなテーマでも。)

*教祖様＝・概論　・神人の深まり（信心の展開）　・教祖様とご家族
・私の頂く教祖様　・他

*教典の御理解の解釈

*人生＝・健康（病気）　・家庭（経済、人間関係）　・結婚　・生き甲斐
・仕事（事業、内容、人間関係）　・育児　・老い　・老人介護　・他

*信心の成長＝・信心の仕方　・信心とお供え（御用）　・代を重ねての助かり
・信心継承　・おかげを受けるコツ、落とすコツ　・家族勢信心
・お手引き　・他

*金光教儀式について＝・月例祭　・春秋大祭　・春秋霊祭　・元日祭　・設立記念祭
・越年祭、半年のお礼祈願祭　・勸学祭　・他
・宅祭　・年祭　・改教式　・結婚式　・葬儀　・七五三
・儀式と神饌物　・玉串奉奠　・他

*信奉者＝・教徒、信徒　・信徒総代　・責任役員　・輔教　・他

*教団の組織、仕組み

押木廣太略歴 (教団の公の御用) 平成22年(2010)現在

- ・昭和19年(1944) 扇町教会二代教会長押木弘一大人の三男として出生
- ・昭和41年(1966) 金光教教師拝命
- ・昭和45年(1970)～昭和48年(1973) 中近畿教務所職員
- ・昭和48年(1973)～現在 大阪府連盟布教部講師
 - *『大阪府連盟布教部』は60年もの間、府下の教師30数名が、府下の教会の月例祭、大祭の教話の奉仕(ボランティア)を続けてきている。
- ・昭和53年(1978) 扇町教会長就任
- ・昭和58年(1983)～昭和63年(1988) 本部 布教研究員
- ・昭和60年(1985)～平成5年(1993) 本部 信徒研修講座講師
- ・昭和61年(1986)～平成6年(1994) 本部 金光新聞論説員『北斗星』連載執筆
- ・平成2年(1990)～平成10年(1998) 本部 教学研究所評議員
- ・平成5年(1993)～平成6年(1994) 大阪府連盟布教部長
～平成10年(1998) 大阪府第3教会連合会長
- ・平成7年(1995)～平成10年(1998) 大阪府連盟理事長
- ・～平成11年(1999) 本部 金光教徒社理事
- ・～平成14年(2002) 本部 輔教志願者講習会講師
- ・平成18年(2006)『四十年褒賞』を受ける

(執筆 その他の布教活動)

- ・『おかげを受けるコツ。落とすコツ』
- ・『しゃあないやん かにんにしたって』
- ・教話集『一日一話』第1集～13集
- ・『真の傘開かれて』
- ・『柳の木』
- ・『扇町教会史』第1集～5集
- ・『金光教名刺』

- ・テレホン教話(06-6312-1430)
 - ・『今日の神様からの気づき(携帯電話へのメール)』
- ・ホームページ開設 ・布教文章を新聞折り込み配布 ・教会月間機関誌

『ボランティア教話出張』をさせていただきます。

もし、

*教話の無い教会が出てきたとか……

*教話を聞く機会が少ない信奉者が増えてきたとか……

というような話題が出た時、押木廣太の『ボランティア教話出張』を話題に出して頂ければ有り難いことです。

チラシもお見せ頂ければ、有り難いことです。

どうぞよろしくお願いいたします。

○

祖母押木マスが教祖の晩年に、父福嶋儀兵衛大人（真砂教会初代教会長）に連れられて大本社に参拝し、教祖より

『氏子、人にもものを頼むな。此方の道は唐傘一本で開くことが出来る。氏子信心しておかげを受けよ』

『ただいま、神様はあのよう仰せになったが、人の心は移り変わりやすいものである。その、人を頼りにするから、腹を立てたり物事を苦しめたりすることになる。人に向かう心を神様に向けよ。神様は、氏子の願いは何でも聞き届けてくださる。此方が傘一本と言うことは、真一心になりきることである』との教えを頂いた。（教典P470）

マスはこの教えを頂き、主人押木領七をこの道の教師となるべく導き、長男弘一と共に、明治42年（1909）大阪の梅田の地に扇町教会を開教した。この開教より昨年平成21年は百年となり、昨年秋に立教百五十年、扇町教会開教百年祭を麗しくお仕えさせて頂いた。

扇町教会は昭和20年の太平洋戦争の空襲で全てを焼かれ、信者も散り散りとなった。戦争が終わり、父弘一（二代）と母富美恵は、焼け跡にバラックを建てたが、その教会の土地を進駐軍が使用することと、立ち退き命令が出た。戦争が終わって後も、戦災を受けたのであった。

両親はひたすら『傘一本』の教えを頂き、教会復興へ信心の情熱を傾け、昭和24年（1949）に現在地に、屋根に瓦なく、天井なし。床に畳みなく、壁に土なし、窓にガラスも無し。勿論電気も水道も、ガスも無い建物で復興のおかげを頂いた。

父はすでに62才（明治20年生）、病身の母は命をかけて、参拝者の無い広前で、敗戦で打ちひしがれた人々の人生を、国の立ちゆきを祈りに祈った。

復興をして間もなく、大阪府連盟布教部が発足（昭和29年）した。府下の各教会へ説教の奉仕をする活動である。父はさっそく、講師となって、府下の各教会の月例祭の説教に回った。この活動のために、月の半分は教会を留守をするようになった。そのことにより、両親は度々ぶつかった。

『お父さん、他の教会の御用も結構ですが、扇町教会は復興して間が無く、教会長が不在では困ります。出かける回数を減らして下さい。』

という意味である。

母がひつこく食い下がるので、とうとう父は、

『大阪の多くの教会は戦災に遭い、バラック普請、未だに防空壕のお広前もある。戦災で大切な人や家を失った信者、ご主人の教会長や若先生が戦死された教会など、みなさん、必死で御用されている。そのような大阪の復興のお役に立てるのであれば、扇町教会は潰れてもいい』と言い放った。

それいらい、母は父の御用に一切口をださないようになり、父の御用を応援し、父に代わり教会の御用をしつつ、父の不足を私につぶやくことなく、父の信心の大きさを語りつつ私を育てた。

また、学院を出た若い私に、両親は教会の全てのことを任せてくれた。

この両親の御用ぶりを見て育った私も、その当時の父の年齢を超えた。開教百年を節として、改めて私自身のこれからの御用のあり方を問うてみた。教会の後継の副教会長高橋政広も40代となり、教会の内外の御用に立っており、十分に教会を任すことが出来る。

しかし、私は隠居するには神様や両親に申し訳ないこととなる。

そこで、思い立ったのが『**ボランティア教話出張**』である。

少しでもお役に立てばとの願いのもとに、公表させて頂くこととなった。

もし、

*教話の無い教会が出てきたとか……

*教会長、教師不在の教会が出てきたとか……

*教話を聞く機会が少ない信奉者が増えてきたとか……

というような話題が出た時、押木廣太の『**ボランティア教話出張**』を話題に出して頂ければ有り難いことです。

チラシもお見せ頂ければ、有り難いことです。

どうぞよろしくお願いいたします。